

科目名称	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際A（昼間） (担当教員名： 關浩和)		
課程	大学院（専門職）1年次	開講学期	前期
授業形態	講義・演習	授業規模	受講者 43人
インタビュー対象教員名	關浩和 (実施日時：7月15日（水）12時30分～13時；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
インタビュー対象受講者名	宮本美枝子，山下剛功，山端真司 (実施日時：7月9日（木）12時30分～13時；実施場所：総合研究棟3階小会議室)		
選定理由	<p><u>1. 授業担当教員へのインタビュー（概要）</u></p> <p>難しいことをいかに分かりやすく、またアカデミックにするために、プレゼンや板書に力を入れているということであった。具体的には、キーワードを黒板に貼って言葉にふれやすくしたり、学生が考えやすくしたりする、実際に関連する映像を見せるなどの工夫があげられた。</p> <p>また、最初に時間をとって前回提出されたカードの質問に答えたり、他の学生の考えを共有したりするというリフレクションにも力を入れているようであった。内容に関しては、生活のことやドラマなどを取り入れて説明することで分かりやすくしているという話もでた。</p> <p>受講生の参画度は、全員出席と参画度は高く、モチベーションも高いと感じているようであった。</p> <p><u>2. 受講生へのインタビュー（概要）</u></p> <p>良かった点としては、教育に絡めて歴史的な変化や当時の社会情勢も教えてくれる等、教育課程やその変遷について立体的につかめた。経験主義と系統主義のバランスの中での学習指導要領が変わっていく様子もよく理解できた。この他、グループワークを取り入れていた、先生が博識で授業の準備も豊富であった、先生の熱い思いが伝わってきた、などが理由に挙げられた。</p> <p>「プレゼンがよかった」「資料がよかった」という自由記述での意見が多かったことに関しては、具体的には、授業で使ったデータを送ってくれる、資料が豊富、大事なワードはマグネットシートで貼る（大事だとわかる）、黒板をみたら内容が分かるような丁寧な授業である、資料で提示された学校へ実際に訪問に行くなどのムーブメントが起こったなど、学生も積極的に授業を受けていることが分かる。</p> <p>また、リフレクションカードが用いられており、疑問に答えてもらったり、みんなの意見が分かったりすることで、考えや学びが深まるということであった。</p> <p><u>3. 総括</u></p> <p>先生の意図と受講生の感じている事がおおむね一致していることで、授業の満足度が高いようであった。</p> <p>プレゼンの資料など準備がよくされていて学生の学びを促進している。また、リフレクションを通して、学びを深められているようであった。</p> <p>上記のことも受講生の参画度が高いことにつながっているのではないだろうか。</p>		

